



平成25年7月1日(月)

校長 市原俊司

通知表は子どもを励ますきっかけに

1学期の初めに、「自分なりのめあてをもって努力を続けよう」という声かけを子供たちにしました。

各学年や学級の授業の様子を見に行くと、多くの学級の子供たちが熱心に学習に取り組み、一生懸命努力しようとする気持ちが強く感じられ、とてもうれしい気持ちになりました。

子供たちが自分たちで学習のめあてをもち、学習内容を理解し、課題を解決し、友達に自分の発表を認められ、お互いに「そうか、わかった、できた。」と喜びながら、達成感や存在感を味わっているようです。

小学校の時期にとくに身につけなければならないこととして、次の三つがあります。

- 1、 基礎的な知識・技能の習得
- 2、 知識・技能を活用して、課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力
- 3、 学習意欲・主体的に学習に取り組む態度

通知表の「担任より」では、こうした観点からみた、子供たちの現在の学習状況や行動の記録を記載しています。ですから、単に学習状況が「よかった。」「悪かった。」とだけ見るのではなくて、どの教科のどんな力で子供たちは努力したのか、どんな成果が上がったのかなど、子供たちの努力と成果の様子をご確認ください。

また、「あいさつや後始末などの基本的な生活習慣ができているか、人や自然とのかかわり方はどうなのか、約束やきまりをまもっているか」などの行動の状況は、学習面の意欲や成果にもつながる大切な要素でもあります。

できたことはもちろん、できなかったことも、どうしてそうなったのかを子供たちと一緒に正しく評価し、話し合い、子供たちが十分理解して納得してから次に進むことが大切です。

通知表をひとつのきっかけとして、学校生活について子供たちと話し合う機会とし、学習面や行動面のよさや努力を認め、励ますきっかけとしてください。

たくさんほめられた子供たちは、自分のよさ、ほかの人のよさ、人を認めることのできる子供に育っていくものです。